

科目名	システム設計						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	志水 徹		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科 2年						
授業概要	システム設計での上流工程の内容を理解し、文書の記述方法を学ぶ。 後期卒業研究において、見やすい設計書を記述できることを目指し、上流工程で必要となる主な設計書に限定して演習形式で記述スキルを磨く。 上流工程の初期工程である、システムの企画書を簡単なシステムで作成することができる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					機能一覧表、画面一覧表、ER図、テーブル定義書、画面遷移、画面入出力一覧とは何かを説明できる。	
		○				簡単な機能一覧表、画面一覧表、ER図、テーブル定義書、画面遷移、画面入出力一覧を作成できる。	
			○			簡単なシステムの企画書を作成することができる。	
		○	○			企画書のプレゼンテーションをすることができる。	
			○	○		グループでの活動をすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	演習用資料(オリジナル) スッキリわかるサーブレット&JSP入門 インプレス						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	オリエンテーション テキスト第14章 Webアプリケーションの設計 仕様書作成(テーブル設					
	3-4	テキスト第14章 Webアプリケーションの設計 仕様書作成(画面設計、機能一覧、画面一覧)					
	5-6	応用情報 H26春 問6 旅客船Web予約システムの設計演習					
	7-8	応用情報 H26春 問6 旅客船Web予約システムの設計演習				提出物などの期限に間に合うように必要に応じて授業外で作業をすること。	
	9-10	卒業制作企画書作成					
	11-12	卒業制作企画書作成 個人プレゼンテーション				プレゼンテーションの準備(資料作成、練習など)を行っておくこと。	
	13-14	卒業制作企画書作成					
	15-16	卒業制作企画書作成 第一回レビュー				レビューの準備(資料作成、練習など)を行っておくこと。	
	17-18	卒業制作企画書作成					
	19-20	卒業制作企画書作成					
	21-22	卒業制作企画書作成 最終レビュー				レビューの準備(資料作成、練習など)を行っておくこと。	
	23-24	卒業制作企画書作成					
	25-26	卒業制作企画書作成					
	27-28	卒業制作企画書作成 企画書提出				期限に間に合うように必要に応じて行っておくこと。	
評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)企画書のプレゼンテーションを実施する(個人)。(3)企画書のプレゼンテーションを実施する(グループ)。(4)授業態度・出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題(設計書・企画書)	○	◎				30%
	企画書プレゼン(個人)		○	◎			30%
	企画書プレゼン(グループ)			○	◎		10%
授業態度・出席状況				◎		30%	
履修上の注意	出席が19回に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	情報処理試験春期対策ⅡA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	志水、久家、今村、村上、古賀、相原、 晶添、藤澤、木村、打越、久保山、姫 野、西野、山下		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋期対策ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	Webアプリケーション開発演習						
科目名(英)							
単位数	7単位	時間数	112時間	担当者	志水 徹		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	情報システム科 2年						
授業概要	Eclipseを使用し、サーブレット、およびJSPを使用したWebアプリケーションの基本的な作成方法を行う。 また、データベースと連携したWebアプリケーションを開発できる実装スキルを身につける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					Webシステム開発に必要な技術用語を説明することができる。	
		○				テキストにあるサンプルアプリケーションを実際に動作させることができる。	
		○				テキストのサンプルアプリケーションを応用し、新たなWebアプリケーションを作ることができる。	
		○	○			作成したアプリケーションについてプレゼンテーションを行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるサーブレット&JSP入門 インプレス USBメモリ 4G以上						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	第0章サーブレット/JSPを学ぶにあたって、第1章 HTMLとWebページ、第2章 WEBのしくみ、第3章 サーブレットの基礎					
	5-8	第3章 サーブレットの基礎、第4章 JSPの基礎、第5章 フォーム					
	9-12	第5章 フォーム、第6章 MVCモデルと処理の遷移、復習プリント				復習プリントに向けて、テキストを見直しておくこと	
	13-16	第6章 MVCモデルと処理の遷移、第7章 リクエストスコープ					
	17-20	第8章 セッションスコープ					
	21-24	第9章 アプリケーションスコープ、第10章 アプリケーション作成					
	25-28	第10章 アプリケーション作成、復習プリント				復習プリントに向けて、テキストを見直しておくこと	
	29-32	第11章 サーブレットクラスの実行のしくみとフィルタ、第12章 アクションタグとEL式					
	33-36	第13章 JDBCプログラムとDAOパターン					
	37-40	第14章 Webアプリケーションの設計、復習プリント				復習プリントに向けて、テキストを見直しておくこと	
	41-44	課題作成					
	45-48	課題作成					
	49-52	課題作成					
	53-56	制作物発表				プレゼンテーションの準備をしておくこと	
評価方法	(1)課題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)授業態度・出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	課題・レポート		○	○			30%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が38回に満たない場合は定期試験の受験資格を与えない。 1年次に学習したJava言語の範囲は理解できているものとして授業を進める。 また、事前に予習をしていることを前提として授業を進める。						

科目名	モバイルアプリケーション開発演習						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	村上 香代・今村 美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科2年						
授業概要	Androidプラットフォームのアーキテクチャを理解し、環境構築から開発、端末での動作確認まで一連の流れを習得する。 サンプルプログラムの作成、演習課題の作成を通し、Androidアプリケーション開発に必要な知識を身に付け、個人で作品開発ができるようになる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Androidの概要、Androidアプリケーションフレームワークの利用方法が理解できる。	
		○				AndroidSDKマニュアルを読んで、自力でアプリケーションの開発ができる。	
テキスト・教材 参考図書	作ればわかる！Androidプログラミング第4版(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-3	Androidの概要、開発環境の構築(DLとインストール、AVD設定)					
	4-6	実行確認、AndroidStudioのファイル構成					
	7-8	レイアウト作成					
	9-11	暗黙的インテント					
	12-14	明示的インテント、イベントの割付					
	15-17	値の受け渡し					
	18-20	ツータッチ楽々メールアプリ 作成、確認テスト			提出物の期限に間に合うように作業をすること 確認テストへ向けてテキストを見直しておくこと		
	21-23	おみくじアプリ 作成			提出物の期限に間に合うように作業をすること		
	24-26	ListViewの利用、お店紹介アプリ 作成			提出物の期限に間に合うように作業をすること		
	27-32	〇時になったよアプリ 作成			提出物の期限に間に合うように作業をすること		
	33-35	SQLiteの利用、確認テスト			提出物の期限に間に合うように作業をすること 確認テストへ向けてテキストを見直しておくこと		
	36-38	WebAPIの利用					
	39-44	課題作成			提出物の期限に間に合うように作業をすること		
評価方法	(1)確認テストを2回実施する。(2)課題を数回実施する。(3)個人作品を作成し作品のプレゼンテーションを行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト(2回実施)	◎	◎				30%
	課題提出		◎				50%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が28回(全42回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	ネットワーク応用						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	高倉 美哉		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科2年						
授業概要	企業内サーバとして構築されるLinuxについて、基本的な操作方法、役割などを学ぶ。また演習を通して、Linuxの基本操作、さまざまな管理機能について理解する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Linuxの概念や役割を説明できる。	
		○				Linuxの基本コマンド操作を行うことができる。	
		○				viエディタによるファイル編集、ユーザ管理、ネットワーク管理などを行うことができる。	
		○				Linuxサーバにおけるプロセス管理、ファイル管理を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	Linux標準教科書(LPI-Japan)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	Linuxとは (UNIX, Linuxの特徴・ディストリビューション)・認定試験について Linuxのインストール					
	6-10	基本コマンド1(ディレクトリ/ファイル操作・コマンドパス) 正規表現とパイプ(標準出力・標準エラー出力・grep)					
	11-15	基本的コマンド2(ファイル属性・テキストファイル操作) viエディタの使い方(基本操作)					
	16-20	管理者の仕事(ユーザアカウント登録/削除・グループ登録・パスワード管理)					
	21-25	ユーザ権限とアクセス権(所有者と所有グループ)					
	26-30	ネットワークの設定と管理(IPアドレス)					
	31-35	ネットワークの設定と管理(簡単なセキュリティの設定)					
	36-40	ファイル管理(ファイルシステム)					
	41-42	ファイル管理(マウント)					
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				70%
	レポート		◎		○		30%
履修上の注意							

科目名	システム構築演習								
科目名(英)									
単位数	7単位	時間数	112時間	担当者	久保山 大地				
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	情報システム科 2年								
授業概要	Windows ServerおよびAWSによるサーバ構築の手法や運用管理を、演習を通して学習する。あわせて、サーバの動作原理やプロトコルの仕組みも理解する。								
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				Windows Serverのディスク、ユーザ・グループ、リソース、Active Directoryの管理ができる。			
	○	○				Windows ServerのDNSサーバ、DHCPサーバが構築できる。			
	○	○				AWSの基本サービス(EC2/EBS/VPC/RDS/ELB/IAM)の内容が説明できる。			
	○	○				AWSの基本サービス(EC2/EBS/VPC/RDS/ELB/IAM)の設定ができる。			
テキスト・教材 参考図書	MTA Windowsサーバー管理の基礎 AWS Academy Cloud Foundations								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1,2	Windows Server(インストール、MBR、GPT、ベーシックディスク、ダイナミックディスク、ファイルシステム、ディスク管理)							
	3,4	Windows Server(サービスマネージャー、サービス、回復オプション、サービスアカウント、依存関係)							
	5,6	Windows Server(ユーザとグループ、ワークグループでのユーザ管理、ローカルユーザの管理、ローカルグループの管理)							
	7,8	Windows Server(リモートデスクトップサービス、RemoteApp、RDゲートウェイ、デスクトップ仮想化、サーバー仮想化)							
	9,10	Windows Server(ベースライン、タスクマネージャー、リソースモニター、パフォーマンスモニター、データコレクターセット、ログの取得、警告の設定)							
	11,12	Windows Server(デバイスドライバ、セキュリティ更新、Windows Update、自動更新、MBSA、WSUS、Windows Serverバックアップ、システムのバックアップと復元)							
	13,14	Windows Server(Active Directory、ドメインユーザの管理、サービスとDNSサービスの関係、ドメインの内部・外部構造、フェデレーションサービス)					Active Directoryの概要についてレポートを作成する		
	15,16	Windows Server(DNSサーバ、DHCPサーバ、グループポリシー)							
	17-20	AWS概要(AWSとは、クラウドとは、リージョン、AZ、基本サービス)					AWSの基本用語、基本サービスについてレポートを作成する		
	21-25	ACF ラボ 1 - Amazon EC2 の紹介(EC2、AMI、VPC、EBS、SG、CloudWatch)							
	26-30	ACF ラボ 2 - EBS を使用する(EBS、ファイルシステム、マウント、スナップショット)							
	31-35	ACF ラボ 3 - VPC を構築し、ウェブサーバーを起動する(VPC、パブリックサブネット、プライベートサブネット、IGW、NATGW、ルートテーブル、SG)					VPCの概要についてレポートを作成する		
	36-40	ACF ラボ 4 - データベースサーバーを構築し、アプリケーションを使用してデータベースを操作する(RDS)							
41-50	ACF ラボ 5 - アーキテクチャのスケールと負荷分散を行う(ELB、Auto Scaling、CloudWatch)								
51-56	ACF ラボ 6 - AWS IAM の紹介(IAM、ユーザ、グループ、ロール、ポリシー)								
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	○	◎				70%		
	レポート		◎		○		30%		
履修上の注意									

科目名	UIデザイン演習A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	中西 紘子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科 2年						
授業概要	HTML5とCSS3を使って、UIを意識したWebページの制作方法を習得します。 また後期に実施されるUIデザイン演習Bの準備としてJavaScriptの基本的な知識を習得します。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				基本的なWebページを作成することができる。	
		○				UIを意識したWebページを作成することができる。	
		○				JavaScriptの基本的な構文をリファレンス参考に理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	スラスラわかるJavaScript アシアル株式会社 生形加奈子/著 株式会社 翔泳社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	基礎知識と準備				GoogleChromeまたはMicrosoftEdge、Safariをインストールしておくこと	
	2	HTMLの作成				HTML・CSSを作成できる環境(エディタ)を準備しておくこと。	
	3	CSSでレイアウトとデザインの設定					
	4	画像の表示とリンクとナビゲーション					
	5	テーブル				教科書P44のテーブル部分を目を通しておくこと	
	6	フォーム				教科書P45のフォーム部分を目を通しておくこと	
	7	トップページの作成					
	8	Bootstrap					
	9	JavaScriptの書き方の基本					
	10	変数とデータ型、配列、連想配列					
	11	制御構文					
	12- 13	制作				必ず制作物のバックアップはとっておくこと	
	14	実際のWebページ制作の工程					
評価方法	(1)授業の中で内容に合わせた課題の提出を10回程度実施する。(2)定期試験に代わる最終課題を実施する。 (3)出席回数を評価する。(4)授業態度の注意が多い学生に対し、減点評価を行う 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期課題		◎				40%
	最終課題		◎				40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位認定できない。 パソコン、教科書は必ず持参のこと。課題に関しては担当教員が在学時間中に作成途中であっても提出すること。しかし提出されたものが最低基準にも満たさない場合は大幅な減点を行う。 また課題は常にバックアップをとること。データの消失による期限の延期は認めません。						

科目名	一般教養Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	28時間	担当者	木村 浩昌		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科 2年						
授業概要	社会人としての一般教養。特に数学分野での実務に必要なものを問題演習と解説の形式で行う。予備時間や余った時間があれば、タイムリーな時事問題も授業テーマとする。一般社会的な疑問・質問については大歓迎です。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					基本的な数学知識を身につけ、実務に使用することができる。	
	○	○				一般社会的な時事問題とその捉え方を身につけ、社会人としてのコミュニケーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新・最強のSPIクリア問題集(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	非言語分野高得点のポイント/非言語分野①(1.仕事算、2.鶴亀算)			残りの練習問題の実施		
	2	非言語分野②(3.損益算、4.速さ・時間・距離)			残りの練習問題の実施		
	3	非言語分野③(5.場合の数、6.確率)			残りの練習問題の実施		
	4	非言語分野④(7.割引料金と精算、8.割合(分割払い))			残りの練習問題の実施		
	5	非言語分野⑤(9.推論、10.集合 他)			残りの練習問題の実施		
	6	予備: 中間確認(非言語分野の弱点)					
	7	言語分野①(1: 二語関係(1)/2: 二語関係(2)/3: 文法)			残りの練習問題の実施		
	8	言語分野②(4: 語句の意味/5: 短文の穴埋め/6: 文章整序)			残りの練習問題の実施		
	9	言語分野③(7: 空欄補充/8: 長文読解/9: 参考問題)			残りの練習問題の実施		
	10	予備: 中間確認(言語分野の弱点)			気になる時事問題の事前確認		
	11	時事			気になる時事問題の事前確認		
	12	時事			気になる時事問題の事前確認		
	13	時事			気になる時事問題の事前確認		
	14	時事					
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)状況を勘案しながら小テストを適宜実施する。(3)授業態度・出席状況以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト	○	○				10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	ビジネスコミュニケーション I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	玉置 万理子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科 2年						
授業概要	今や情報収集も人間交流もパソコンや携帯端末があれば簡単にできてしまう。しかし、そんな時代だからこそ、人と人との直接的なコミュニケーションが大切だといえる。そこで、この授業ではコミュニケーションの大切さを学び直し、ビジネスシーンにも通用するコミュニケーションの技法の基礎を身に着ける						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				社会人としてのコミュニケーションの基本を理解することができる。	
		○	○	○		社会人としての正しい言葉遣いを習得できる。	
	○		○	○		社会人として、相手に意図が伝わるための効果的に話すことができる。	
	○			○		社会人として、相手に意図が伝わるための効果的な表現ができる。	
○			○		社会人として、聞き上手と思われる話の聞き方ができる。		
テキスト・教材 参考図書	コミュニケーション技法						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業項目・内容、自己紹介					
	2	コミュニケーション行動目己チェック・コミュニケーション方法の中身				教科書の該当範囲を読んでおく。	
	3	あいさつの効用とあいさつの仕方				教科書の該当範囲を読んでおく。	
	4	正しい日本語を身につける				教科書の該当範囲を読んでおく。	
	5	敬語表現の基本				教科書の該当範囲を読んでおく。	
	6	間違いやすい敬語表現				教科書の該当範囲を読んでおく。試験を実施するため復習しておく。	
	7	間違いやすい敬語表現とクッション言葉・敬語テスト				教科書の該当範囲を読んでおく。	
	8	プレゼンテーション演習				教科書の該当範囲を読んでおく。	
	9	効果的な話し方を理解する				教科書の該当範囲を読んでおく。	
	10	効果的な表現力を身につける				教科書の該当範囲を読んでおく。	
	11	身体での表現方法を理解する				教科書の該当範囲を読んでおく。	
	12	総合演習(プレゼンテーション)				教科書の該当範囲を読んでおく。試験を実施するため復習しておく。	
	13	聞くことの重要性を理解する				教科書の該当範囲を読んでおく。	
	14	総まとめ				教科書の該当範囲を読んでおく。	
15							
評価方法	(1)実技試験を数回実施する。(2)授業中に筆記試験を1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト(筆記)		◎				25%
	発表・作品(実技試験)	○	◎	◎	◎		55%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	志水 徹・村上 香代		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科 2年						
授業概要	IT業界で仕事をする上で、知っておくべき業界の基礎知識を学ぶ。IT業界のサービス分類や、IT事業者のグループ編成など、今後自分が身を置く業界構造を正しく理解し、業界でのキャリアをしっかりと考えることで、業界で活躍する技術者としての心構えを身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				IT業界についての用語を説明できる。	
		○		○		IT業界の事柄についてレポートとしてまとめることができる。	
テキスト・教材 参考図書	デジタル・IT業界がよくわかる本(宣伝会議)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	グーグルとアップルの違いってなんだろう？					
	3-4	働く前に知りたい！IT業界の方向性				ここまでのレポートを作成しておくこと。	
	5-6	中間レポート作成				中間レポートを作成すること。	
	7-8	ITで変化したメディアについて知って就活に活かそう					
	9-10	ここまで進んでいるIT広告の最先端を理解しておこう(1)					
	11-12	ここまで進んでいるIT広告の最先端を理解しておこう(2)					
	13-14	ここまで進んでいるIT広告の最先端を理解しておこう(3)				ここまでのレポートを作成しておくこと。	
	15-16	文系の仕事が増えているIT業界の仕事					
	17-18	知っておこう！最先端のIT知識「モノのインターネット」					
	19-20	よく知ろう！IT業界の会社選び(1)					
	21-22	よく知ろう！IT業界の会社選び(2)					
	23-24	たくさんあるIT業界の仕事を分類してみよう					
	25-26	専門家の会社分析手法を盗もう				ここまでのレポートを作成しておくこと。	
	27-28	最終レポート作成				最終レポートを作成すること。	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)授業態度・出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	○		◎		80%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が19回に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	GCB II						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	志水 徹・村上 香代		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科 2年						
授業概要	「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す ・歴史の理解とグローバル化を見据えた広い視野・知識と深い洞察力 ・未来からの反射を踏まえた自分像に向けて自己を革新する成長力 ・与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		<input type="radio"/>				考えることの大切さを理解することができる。	
		<input type="radio"/>				自分の言葉で伝える大切さを理解することができる。	
		<input type="radio"/>				目標の大切さ、志の大切さを理解することができる。	
		<input type="radio"/>				行動する大切さを理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	麻生情報ビジネス専門学校 グローバルシティズンベーシックII 志の教育						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志				振り返りレポート	
	2	なぜ志を立てることが大切なのか				振り返りレポート	
	3	自己を知る				振り返りレポート	
	4	伝える力を学ぶ(1)				振り返りレポート	
	5	伝える力を学ぶ(2)				振り返りレポート	
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる				振り返りレポート	
	7	自己の大切さと責任を自覚する				振り返りレポート	
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと				振り返りレポート	
評価方法	(1)レポートを数回実施する (2)授業態度 (3)出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		<input type="radio"/>				60%
	出席状況・授業態度				<input type="radio"/>		40%
履修上の注意	出席が6回(全8回)に満たない場合、または、レポートがすべて提出されていない場合は単位認定できない。						

科目名	ビジネスソフトウェア演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	河野 明子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科2年						
授業概要	卒業後社会人として、社内または社外とさまざまな場面でプレゼンテーションの能力が必要とされる プレゼンテーションのツールとして、PowerPointを使うことができる技術を学ぶことはもちろん大事であるが、 それ以前の発表準備やプレゼンテーションを見せるテクニックを学ぶことに重点を置き学習する						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			プレゼンテーションの発表準備をマニュアルに沿ってできる。	
		○	○			プレゼンテーション技法の基礎を知り、効果的に発表することができる。	
		○	○			PowerPointを使って、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016(FOM出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	プレゼンテーションの新規					
	2	図形・画像・ビデオの編集					
	3	スライドショーの実行、アプリ間でデータの共有(他Office)					
	4	PowerPoint 総復習			使い方の復習をしておくこと。		
	5	プレゼンの流れ・準備・情報収集方法・ストーリーづくり					
	6	視覚化のポイント・テーマ決め・ストーリーシート作成			グループ分けと発表の順番を決めます		
	7	PowerPointで資料作成-1					
	8	PowerPointで資料作成-2					
	9	PowerPointで資料作成-3			9回までにプレゼン資料を仕上げる		
	10	プレゼンテーションのリハーサル-1			プレゼンテーションの練習をしておくこと。		
	11	プレゼンテーションのリハーサル-2					
	12	プレゼンテーションの実施(発表)-1			プレゼンテーションの練習をしておくこと。		
	13	プレゼンテーションの実施(発表)-2					
	14	フィードバックとプレゼン資料修正と提出					
15							
評価方法	(1)定期試験(実技)を実施する。(2)数回の課題を課す。(3)課題に対してのプレゼンテーションを実施する。 (4)授業態度・出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○	◎			30%
	宿題・レポート		○	◎			30%
	発表・作品		○	◎			30%
	出席状況・授業態度				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位認定できない。 プレゼンテーションには、時間の制約があるので、しっかり守って作業をしましょう						